



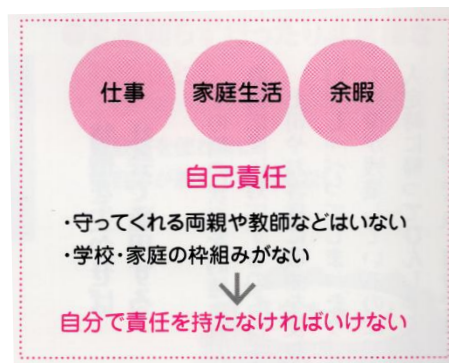
## 子供たちが大人になった時のことを考えてみませんか？

私たちはつい、子供の今の時期ばかりを見てしまいがちですが、子供の時間はたった20年間しかありません。子供の時間にできることを積み重ねておくことが、その後の大人の時間を支えます。

大人になると、自立して社会生活を営まなくてはなりません。要求されるレベルが高くなるので、壁にぶつかってしまいがちです。個人差はありますが、大人の場合は多動性(落ち着きのなさ)が弱まり、不注意が目立つ傾向があります。そうすると、「つまらないミスをしてしまう」「集中力が続かない」ということが目立ってしまい、仕事や家庭生活に支障をきたすようになってしまうかもしれません。



子供の時



大人になったら

大人になると、子供の時のように助けてもらえません。大人なのだからできて当たり前だと思われ、言い訳もできないかもしれません。職場では、忘れ物やケアレスミスなどは、厳しく叱責されることもあるでしょう。その分、子供時代よりつらい思いをすることが多くなります。さらに、失敗するとその代償が大きくなるので、なおさらつらい立場に追い込まれてしまうかもしれません。

というものの、子供たちにとってできることは、年齢とともに増えていきます。私たちは子供たちに何でも「早くできるようになること」を願いがちですが、私たちでも一度に100歩は歩けません。焦ることなく一步一步です。「いま何でもできるようになること」ではなく、大人になったときに「ひと通りのこと」ができるようになることが目的です。

### そのために今できること

- \*元気に挨拶をする。
- \*身の回りの片づけをする。
- \*家事の手伝いをする。
- \*自分でスケジュールを決めて、実践する。など

ご家庭で、参考にしてみてください。

参考:

- ・『アスペルガー・ADHD 発達障害シーン別解決ブック』司馬理英子
- ・『家庭でできる発達障害の子が自立するために身につけておきたい大切なこと』平岩幹男著